

## 第2回泉大津市教育振興基本計画策定委員会 議事録

日時　　：平成27年11月13日（金） 19：00～21：13

場所　　：泉大津市役所職員会館 3階集会室

出席委員：13名

藤村委員長、岡崎副委員長、吉美委員、早野委員、石橋委員、加藤委員、木村委員、車谷委員、相委員、花野委員、座古委員、山中委員、伊藤委員

事務局　　富田教育長、小川教育部長、丸山教育部参事、東山教育総務課長、向井指導課長、木村教育総務課長補佐、藤田教育総務課総務係長、山下教育総務課保健給食係員

欠席委員：渡辺委員、金澤委員、（2名）

◎委員長　□副委員長　○委員　●事務局　■教育長

### 1. 開会

#### ●事務局

ただ今より第2回泉大津市教育振興基本計画策定委員会を開催する。現在過半数の委員がご出席されているので、本会議は成立していることをご報告する。なお、前回同様会議の内容については、ホームページで概要を公開するので予めご了承宜しくお願する。また、正確な会議録作成のため録音することをお伝えさせていただく。

### 2. 教育長挨拶

#### ■教育長

（省略）

### 3. 議事

#### （1）泉大津市教育振興基本計画の構成（案）について

①基本理念（案）と施策体系（案）について

②基本施策の具定例（案）について

#### ◎委員長

では今から2時間ばかり、かなり詰めた議論になると思うが宜しくお願ひす

る。それでは、事務局から説明をお願いする。

## ●事務局

### 資料1、2、3説明（省略）

#### ◎委員長

会議の進め方だが、事前に事務局から各委員に資料を提示し、特に各委員の専門の分野についてご意見を伺いたいと依頼していると聞いる。なるべく資料3の施策の展開、基本施策の具体例（案）の順番に沿ってご意見をいただきたいと思う。他の委員の皆様から質問や補足があれば、そこで出していただきたい。

では、まず第1番目の乳幼児期から一貫性のある「生きる力」の育成、特にその中の基本施策1-1就学前教育の充実について、この分野で実際に幼稚園長をされている委員からご意見を伺いたいと思う。

#### ○委員

ご存知の通り泉大津市では、現在、幼稚園と保育所を一つにした認定こども園が2園整備されている。それを踏まえて、幼稚園の所管が教育委員会からこども未来課へ変更となった。幼稚園・保育所・認定こども園を併せた一つの就学前教育施設として取り組んでいるところである。その中で、人事交流が人事異動に変更となったため、幼稚園と保育所の職員が一つとなって、これまでと違った研修を受けている。

26年度に保幼小体系化プログラムについて、神戸大学大学院の北野先生と奈良教育大学の堀越先生に来ていただき、指定校2園で年間8回ほど研修を行った。幼稚園・保育所・認定こども園の職員が、公開保育や研究討議にも全員で参加した。その中で、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの大切さを知った。ある先生が鉛筆の授業をした時、大きな紙に子どもが線路を書くと、その続きを別の子どもが書き、繋がり、コミュニケーションが生まれ、子どもが学びに興味を持ち、集中することがあった。子どもが興味や関心を持つことは意欲に繋がり、そこで集中力や持続力が育ち、子どもが楽しく取り組むことに繋がっていく。そのためには教師の教材研究がとても大切で、教師は簡単に「上手やね、良かったね」と言ってしまうが、教師は意識して「これがこうだったから、こここのところがとても良かったね」と言うように、何が良かったかを言葉で、意識して伝えることが大事であると教えていただいた。だから集中力・意欲や探究心・協働性を身につけるために、幼稚園の遊びを小学校へ繋いでいくことが本当に大切だと、研修会や研究会に参加した職員にも分か

った。これを各園・保育所で管理職が中心となり、もっと広め、ただ通常の保育をするのではなく、その中で子どもが何を身につけて、自分の今日の設定保育がどうだったのかという評価をきっちつとする必要がある。これまで本市で行ってきたことが間違っているわけではない。教師が何を育ててきたかを把握するべきだと教えていただいた。

また昨日、保幼小体系化プログラムに参加している教員が、小学校1年生の授業で国語・算数・生活科を見学に行った。生活科や算数の授業に参加した教員から、もっと数を比べるなどの遊びが必要だと気づいたと、報告を受けた。低学年においてはそのことが刺激になると実感した。研修を受けた者だけではなく、全員が共有することが保育の質の向上に繋がると思う。

#### ◎委員長

就学前教育は小学校との連携を視野に入れるが、小学校への準備教育ではないということである。では、特に具体的な施策や主な取組みの中で、計画に反映させたい文言はあるか。アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムなどは大きな手立てになるのだが。

#### ○委員

今、力を入れてそれらに取り組んでいる。学校へ行く準備ではなく、集中力・根気・友達との繋がりの中で、コミュニケーションも知恵も工夫も生まれてくる。それがまさしく学びの根っこ・土台として大事なのだということを、しっかりと教員が意識していくことが大切である。学校の先生にも学んでいただければ、もっとスムーズな接続ができると思う。

#### ◎委員長

アプローチカリキュラムのアプローチはどこにアプローチするのか。またスタートカリキュラムのスタートは何のスタートか。

#### ○委員

アプローチは「こんな集中力を持って小学校へ行きますよ」ということである。スタートは小学校へ入学した子どもの新しい環境が始まるということである。小学校へ行くと、時間割があるがそれを少し工夫し、手遊びなどで集中させて授業に臨めば良いかなと思う。

#### ◎委員長

では次に進めていきたいと思うが、本市ではＩＣＴを活用した教育に入

れていきたいと考えている。市内で I C T 活用に取り組んでいる学校長の委員に意見を聞きたい。

#### ○委員

本校では泉大津市の研究指定を受けて、 I C T 機器を活用した分かりやすい授業の推進に取り組んでいる。主に I P A D を用いて、教職員がどれだけ活用できるか、また、子ども達に持たせたらどうなるのかを研究している。

今は団塊の世代が退職し、半数以上が若い教員で占められている。若い教員は I C T 機器に柔軟に対応しており、以前は準備が大変だったが、今は瞬時に準備ができ、45分の授業が効果的に実施されている。子ども達に I P A D を持たせる授業を実施しているが、3年生に4時間使用させるだけで、自分で調べてきたことに動画・写真などを盛り込んでプレゼンテーションできるようになった現状を知り、これからの中には I C T 機器をもっと効果的に取り込む必要性を感じている。

今日まさしく、他市の小学校で研究発表会が行われ、本校の教員3名が参加している。先進的な部分を取り入れ、自校の研究と合致させながら進められたら良いと思っている。以上のことが今回の計画に位置づけられているので、これからの中には I C T 機器をもっと効果的に取り込む必要性を感じている。

#### ◎委員長

何かご質問・ご意見はあるか。このタブレットを使用することで具体的にどのような授業ができるのか。我々の頃には、教室にそのようなものはなく、パソコン室に行き大きなパソコンを前に、キーボードを打つぐらいのことしかしなかったが、今は子ども達に1台ずつの時代か。

#### ○委員

一台ずつではないが、6人グループで一台を使用する。写真を取り込んで全員で見て、自分達で気付いたことや、どう思ったか意見を書き、それが瞬時に教師のタブレットに移行する。今までではまとめるのに時間がかかったが、瞬時に意見が教室の前のスクリーンに写されるため、すぐに意見を返して、高めていけるという意味で、タブレットは有効であると感じている。

#### ◎委員長

効果があるように聞こえるが、国の調査では教員の指導力が課題であると指摘されている。特に大阪は使いこなせる教員の割合が低いという結果がでてい

る。導入にはかなりの費用が必要だが大丈夫か。

#### ○委員

年配の先生はできないと言う方が多かったため、そう言う先生に使用してもらおうと、研究主任がタブレットの使い方の説明を行い、その説明を受けた先生が校内で研究授業を行ったところ、「あの先生ができるなら私もできるかな」、「案外簡単だ」ということになり、年配の教員に広まり、現在浸透しつつある段階である。若い世代はどんどん先に行くので、そのレベルまではできないが、段階を追って上手に説明すると、全ての教員が使用できるのではないかと思う。研修の仕方を工夫すれば案外早いと思う。

#### ◎委員長

授業に役立つ道具であり、また先生にも使える可能性が大きいにあるので、教育委員会には是非ともこの導入の支援をお願いしたいということである。

では、5ページ、6ページに進む。豊かな心と健やかな身体の育成2-1、豊かな心の育成で、道徳教育が学習指導要領で教科に位置づけられ、大きな流れの変化があった。人権教育やいじめの問題などは家庭・地域の協力が大変必要であり、家庭・地域の意識を高めていくためにどのようなことが重要だと考えているのか。

#### ○委員

教育に関しては素人だが、青年会議所に所属し、親育をしたことがある。子どもばかりに教育をするのではなく、子どもが生まれて私も親になり、5年目で日が浅いにも関わらず、教育に関して色々学ばないといけない。道徳なども教えたりするが、親も勉強しなくてはいけない。講師の方に来ていただき、セミナーを開催することで地域の保護者を呼び集め、繋げていくことが街づくりに繋がると考える。私達も手探りで色々考えているが、わんぱく相撲を通して、道徳を学べるようにと考えている。セミナーを通して、街の繋がりを少しでも持てると思う。

#### ◎委員長

参加される方の反応はどうか。

#### ○委員

参加して良かったという声がある。開催の告知が中々行き届かないことが理由で、わんぱく相撲の参加者が増えていないこともあり、難しい課題はある。

◎委員長

どんな相撲か。

○委員

小学生を対象に実施しており、ただ相撲をするだけではなく、豊かな心をはぐくむなど、挨拶や礼儀などをテーマにしている。

◎委員長

そこに保護者の方はどう関わっているのか。

○委員

ほとんどの方は参加するだけだが、子ども達にルールの説明をするなど、関わりを深めてもらっている。

◎委員長

多くの方に関わっていただく秘訣などはあるのか。何かを行う時に、来て欲しい方が来ていただけないということは往々にしてあるので、何か巻き込める特別な要素はあるのか。

○委員

ちょっとした工夫として感じていることは、口コミは重要だということだ。色々なところでの宣伝やPTAの会合に参加させていただいたりしている。良いことをしていると思っても、浸透するのは中々難しい。道徳についても何かできればと思うが、難しいことを言うと離れて行ってしまうため、親にスポットを当て参加しやすいように実施していきたい。

◎委員長

この計画は、基本的には学校教育が大きなテーマであるが、保護者と地域の協力は必要であり、手立てを何か考えないといけない。他に何かご意見はあるか。

○委員

逆に、学校にもっと何か力を貸して欲しいことはないのか。地域や家庭の立場で何か催しをした時に、もう少し学校が協力してくれないのかなというようなジレンマはないのか。学校側は家庭や地域にお願いしたいことはたくさんあ

るが、家庭や地域から学校にお願いするということはあるのかなと思った。

○委員

小学校にはチラシを配ってもらうなど、協力はしてもらっている。でも動員までに至らず、ちょっとした口コミや会議に出席することが有効である。和泉市や岸和田市と比べると参加者は多いが、自分たちは増えていないと思っている。

○委員

今回の計画が、学校教育がメインとなっているため、地域や家庭はそれに協力するイメージになっている。それで本当に良いのか。みんなが一緒に行動する時は、どこが主体なのかではなく、三者が一つになるのが大事であると思う。そういうコンセプトで作られている計画なので良いが、実体としては中々難しいところがあると思う。

○委員長

今の点で、他にご意見あるか。どうすれば一緒に繋がってやっていけるのか。先程、親育と言わされたが、親を育てるという事か。

○委員

そうである。難しいことを言っても子どもは離れてしまうため、講師の先生をお招きしてセミナーを実施した。色々なアプローチで育成に関わりたいと思う。

○委員長

学校教育と社会教育の接点には重なりがあると思うが、ご意見あるか。

○委員

セミナーに参加されるのは母親が多いのか。父親が多いのか。

○委員

やはり母親が多い。母親が参加すれば父親も参加する。自分も妻が行くなら行こうと思う。

○委員長

学校はどのようにして、家庭や地域と繋がっていこうとしているのか。

## ○委員

私は泉大津市の財産に成りつつあるものは、地域教育協議会のすこやかネットであり、地域と学校をつなぐ基盤となっていると思う。そこに関わる子ども、保護者や地域の人々がかなり増えている。昔は自治会などあったが、今は子供会が成立しない地域もある中で、それに代わるすこやかネットが婦人会や子供会の活動など、ばらばらの地域活動をまとめているように思う。この発展が地域、学校、保護者の繋がりをさらに発展させていくと思う。

## ◎委員長

他にご意見はあるか。「つながりからはじまる学びの環」がキャッチフレーズなので、今の話については意識して以降に議論できようみたいと思う。

では7ページの健やかな身体の育成だが、ここは教育委員会においても十分な取組みができていないと反省をしているところである。他の取組みに比べて物足りなさはあると思うが、これからどんな方向で進んでいけば良いのか、また、何か重要な視点が抜けていないのか、ご助言お願いする。

## ○委員

小中学校における確かな学力の育成には体力が入っていない。体育の授業を通じて、しっかりとした学力を身につけるということは必要であり、体力はただ鍛えて力をつけていくものではなく、学力と合わせて身につけていくものと考えており、体力と学力を分けて記載することに違和感を覚える。

泉大津という地域柄は海が近く、後にも出てくるが、セーフティネットの防災教育との関連もあり、もう少し力強く「命を守る体育」と考え、体力がないと命を守れないというメッセージにしたらどうかと思う。色々な取組みがあるが、現場の先生が指導の中で取り組んでいく必要性もある。東日本大震災や大きな事件を考えるとそれぐらいの覚悟が必要であり、体力と学力をあわせて育てるという視点が大切だと思った。また、「豊かな心と健やかな身体の育成」だが、「身体は豊かでなくて良いのか」とも受け取れる。単なることばの使い方の問題だが、自分はダンス専門で、身体こそが豊かでないと子どもは育たない、知識を身につけながら身体も一緒に育つことが本当に大事であると感じており、分離しないで一緒にしてもらえたと思った。基本的な方向性や施策などで触れられているが、心と身体を分離せずに、一緒に育てる、心も全部含めた身体作りが望ましと思った。クラブ活動などの問題もあるが、理念的には体力づくりだけをしたら良いという雰囲気に思えるので、何かもう少し豊かさを加えて欲しい。

◎委員長

何かとはどんなことか。

○委員

命を守る体育に取り組んでいくなど、ただ走るだけではなく、色々工夫はあると思う。スポーツ種目をするだけで体育授業をしていると言うが、それだけではない。生涯を通じて身体づくりをするという観点から、色々な取組みの仕方がある。子どもの時の身体づくりは将来を通じての運動・健康の基本となり、子どもの時の身体をもう少し丁寧に扱ってあげる、あるいは心の部分も含めて生涯を通じた身体作りというコンセプトを何とか取り入れて欲しいと思う。命を大事にしたり、友達の身体や心を大切にしたりすることに繋がるのではないかという印象を持っている。

◎委員長

では、事務局に質問する。体力について、泉大津市の子ども達には課題があることを認識しているのか、具体的に話を聞いていただきたい。それから生涯を通じた身体づくりを視野に入れて欲しいとあったが、事務局ではこれについてどのように考えているのかお答えいただきたい。

●事務局

大阪の体力テストの結果は府、全国と比べてもあまり高くない。むしろ低い方である。色々取り組んでいるが、単発的であり統一された体力作りが現場でできていない、そこが指導し切れていない部分である。今後、ご指摘いただいたように、ただ体力づくりのために体を動かすだけでなく、頭を使って体を動かし、また、気持ちを一つにするためコミュニケーションをとるなど、心も身体も育つ教育をしていかねばならないと思っている。

■教育長

ここしばらくは、学力ばかり言われていた。そのため体力の取組みが少し市として、系統立てできていないのではないかというご指摘と受け止めている。昔から中学校では部活動が盛んで、活動する子はものすごく活動し、全国大会にも出場している。一方で活動しない子は全然しないという、その差が大きい実態の中で、命を守る体育や心も含めた体力づくりに関しては、趣旨として計画に書かれた内容を今見ると寂しく思った。もう少しここの記述、取組み内容を充実させていきたいと思う。

## ◎委員長

実際、体育の授業は週に2、3時間である。子どもが何かを身につける程の時間が十分取れているとは言いづらい。その中で、生涯を通じて運動に親しみ、身体づくりに关心を持つ子どもを育てていかないといけない、そういう視点が必要だとお話を聞いて思った。

先程言われた健やかな身体と豊かな心というのはセットではないだろうか。今、国では「生きる力」がキーワードとなっており、便宜的に3つに分け「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」としているが、セットで「生きる力」だと整理している。それらは、一体のものであるという認識は示されてはいるが、実際に、一人の人間の中で一体のものとして育てなければいけないということである。

## ○委員

中学生の女子は非常に体力テストの結果が低い。このまま運動経験無く過ごし、将来どのような人生を歩むのかと考えた時に、骨粗しょう症の問題などが見えてくる。若い頃の運動経験が将来に確実に役立つことを教えていくべきであり、無理なダイエットは将来、身体をぼろぼろにするという知識を教えないといけない。知識を持って身体作りをしていく、それが3本柱を分離しないで育していくということであり、そうした方向性を打ち出すことによって他の市にはない、すばらしい計画になると思う。

## ○委員

私も体育教師だが、持久走の授業を想像した。体力作りのために持久走で全員が6分以内に走ろうと言っても走れない子がいる。そこでは理屈が必要である。体力をつけるために持久走で早いタイムを出すことが求められているが、自分は体力を作らなくて今まで良いという子どももいる。先程、教育長が言わされたが、趣旨のところに、教員が読んでなるほどとヒントになる言葉がちりばめられると、もっと教員の参考になる。教育現場と離れないような表現をしていただければ、学校の教育力に反映するような計画になっていくと思う。そういう意味でも、趣旨はシンプルかつ、先生方にヒントとなるような書きぶりがありがたいと思う。

## ◎委員長

そのためにも、学力と体力は繋がらないといけない。ここの健康3原則は「調和のとれた食事」、「適切な運動」、「充分な休養・睡眠」なども意識はされてい

る。薬物乱用防止も、これから気をつけていかなければいけなくなる。

それでは8ページの子どもをはぐくむ学校力・教師力、学校の経営力に進む。管理職のあり方が非常に重要となっているが、現場の管理職である委員から学校経営力の向上についてご意見をいただきたい。

### ○委員

学校経営力の向上は4つの柱で書かれており、学校マネジメント力の強化、開かれた学校づくり、教職員の多忙の解消に向けた取組み、教員の健康面での配慮と支援、これらに沿って意見を述べることとする。

管理職のマネジメント力は非常に重要だと思っている。学校の弱みや強みを把握し、学校力を高めるために何が必要かを見定めて、明確な目標を示すことで、統一した方向性が示せるのではないかと思う。職員が個々に違った目標を見つめていると分散してしまうため、一つの目標を定めることで効果的な教育が実践できる。そのためには具体的な目標を掲げることが大切である。また、個々の力だけでなく、組織としての対応が重要となってくる。組織力を発揮するためには、個々の力、資質の向上も重要であると思っている。教員の力が発揮できるような校務分掌や、組織体制などを含めてマネジメントしていく、それが学校の運営の重要なところと思う。

それから開かれた学校づくりで、いくら学校力をつけても学校だけでは指導に限界がある。保護者や地域の力が当然不可欠である。先程も地域との関連のお話があったが、学校でも登下校の挨拶運動で地域の方に参加していただいている。また、見守り活動をしていただいたり、または職場体験で各地域に出向かせてもらったりと保護者や地域の方の協力が必須であると考えている。その協力を得るために、学校情報の発信義務があると思う。例えば学校通信やホームページなどで、できるだけ学校の生の姿を見ていただき、同時に意見をもらうなどして、保護者に学校自己診断で学校の評価をしていただき、改善していく。また、学校園協議会など、地域の方から意見をいただける場としてできるだけ学校をオープンにしていくことが必要である。たくさんの方が、行事などで学校に来ていただいた時、中学生にこれだけの活動ができるのかと感心していた。やはり子ども達の生の、すばらしい姿を保護者・地域の方に見ていただくことが非常に大事だと思う。オープンスクールなど、一日学校を開設しているが、そこでアンケートで、「環境美化に力を入れて欲しい」、「しっかり授業をしているので安心した」、「ＩＣＴ機器を用い工夫した授業をしている」、など様々なご意見をいただいた。それをしっかりと謙虚に受け止めて、より信頼される学校にしていくべきだと考えている。

それから3つ目だが、大阪の教員は非常に勤務時間が長いと報道されている

が、本来教員がもっとも時間を取りたいのは、子どもと向き合う時間や子どもに分かりやすい授業をするための教材研究の時間、この2つではないかと考えている。ただ対外的な活動の増加や報告書作成、会議など事務的な業務に要する時間が増加し、子どもと向き合う時間が削られてしまうことは残念なことと思っている。その中で事務の共同化や電子データの一元化、外部人材の協力など、教員が本当にやるべきことに集中できる環境作りは今後必要だと思う。

最後の4つ目、教員の健康面での配慮と支援だが、何をおいても体の健康、心の健康が一番大事と思っている。生徒を健全な方向へ導く立場なので、教員も健康でなくてはならない。教師は生徒にとっても魅力的でないとならないと常日頃、職員に言っている。健康で元気でいることは、生徒に与える影響は大きいと考えている。このあたりの4点を特に考えて学校の運営にこれからも携わっていきたいと思う。

#### ◎委員長

計画には、学校の経営に当たって、管理職は広く意見を交わして行うと、非常に良い文言が謳われている。学校経営は校長先生の一人の責任ではないし、まして一人でできるわけではないので、この文言が謳われていると思うが、府立高校ではどうか。

#### ○委員

経営計画ができて6年目程度になる。教育の評価を計る物差しは作りにくいのものだが、各校段々と熟度が上がっており、熟度の高いものは数値評価されている。本校でも、学校経営計画を作成するときは、進路関係については進路指導部長と意見交換をしながら計画を作っている。経営計画も先生に近いところで書かねば意味がない。先生一人ひとりの目標が経営計画とリンクしていないと全く意味がない。自己申告表が経営計画とリンクしていると先生も自覚しやすく、教員と話し合って、自己申告表で自己評価ができる、全て一体となった形が必要であると思う。

#### ◎委員長

教員が意識できる、自分達の計画だと思えるようなものが大切である。学校と経営という言葉は中々結びつかない。学校を経営するとはいかなるものなのか、この言葉は自分が教員をしていた十数年前は全然出てこなかった言葉である。泉大津市では学校経営計画にどのように取り組んでいるのか。府立高校では経営計画を出し、成果指標を出し、点検は3回くらいしているのか。

○委員

そうである。多い学校は3回程度している。

■教育長

計画策定を導入して2年目だが、経営計画を立てる時に、中長期の目標と今年度の目標があり、右側に数値目標を書く欄がある。目標が達成できたかどうかを右側の数値で見ることになっている。それから計画を立てる時に、学校評議員や地域の代表の方と意見交換をして計画を作るという形で行っている。それを我々5名の教育委員が学校訪問を行い、学校経営計画に基づいてヒアリングをする。年度末に、最終的な達成状況について、数値の達成状況や学校評議員との意見交換の内容に基づいて報告をいただくことになっている。まだ今年で2年目なので十分な形ができていない。

◎委員長

学校経営計画を作り何か変わったか。明らかに学校が変わったということはあったか。

○委員

学校経営計画は、当然私一人で作るものではなく、教員と一緒に考える事によって、ただ単に計画ができるのではなく、教員の中で責任や自信が生まれてくる。私がこの方向だと示すだけでなく、お互いに意見交換した中で決めた方向だから、ついていくのではなく自分達で歩いて行こうという力が生まれる。はっきりと目標立てすることによって、1年間通して色々な行事、授業で常にその目標を意識する。年度末においても振り返りがしやすく、ステップアップに繋がるのかなという気がする。一緒に考えたことが、一つの集団で動いているという意識、教員個々の力を生んでいると思う。

○委員

学校には色々な分掌があり、学校経営計画を作ることによって、役割分担や目標が明確になる。進路指導部の先生なら学校経営計画の中に進路指導に関する数値目標があり、生徒指導部なら遅刻を何%減にするなどの目標がある。そうなると役割分担がはっきりし、組織的に動いてくる。できていなかつたら何故かを確認し、目標が共有でき、手立てを考えることをシステム的にできる。

◎委員長

これまでの学校に足りなかつた部分ではあるが、点検を定期的に実施すると

いう表現はぎすぎすしないか。どのくらいお金を稼ぎ、何がどれだけ売れたかという仕事ではなく、相手が子どもであり即成果が表れるものではない。経営計画は必要だが、その運用にあたっては十分配慮をお願いしたいと個人的には思った。

もう1点、多忙化についてだが、昨年世界調査があり、日本の教員が世界で一番忙しく残業があり、自宅に仕事を持ち帰っているという報告があった。ワークショップで、子どもに関することならいくらでも時間をかけるが、それ以外の事務的なことで時間を取られるため、実際に子どもと向き合う時間が少なくなってきたという声があった。それに対する教育委員会の認識がもう少し欲しいと思う。様々なライフスタイルがあることを前提にとあるが、仕事、子育て、親の介護がある中で、教職員のワークライフバランスを尊重していくことは当たり前であり、健康管理に配慮した適切な支援を行うと書くだけでは、一体何をしてくれるのかと先生達は思うのではないだろうか。多忙化の問題は、先生自身が健康で働く環境にあるかということもあり、そのことが結果として子どもに返ってくるため、重要な課題だと思っている。もう少し工夫ができないかなと思う。多分、先生方の一番大きな悩みを聞くと、忙しいということではないだろうか。一般的には労基法で就業時間中に45分の休憩を取らせなくてはいけないのだが、それができていない職場があるという状況の中でどうすれば良いのか。教員を増やして欲しいと思うが、財務省は教員を減らせと反対しており、一市教委に何ができるのか、もう少し何か知恵が欲しい。

続きまして、個々の教員の資質向上について、9ページの教職員の資質・能力の向上に進む。府立学校と義務教育では違っている部分もあるかと思うが、委員ご意見は。

## ○委員

この振興基本計画 자체が学校の教育力の向上をめざしており、計画としては必須項目であると考えている。現状で言うと団塊の世代が大量退職し、新規採用が増えている。府立学校では、少ない所で毎年新任教員が2名、多い学校では4、5名が入ってくる。だから若手教員の研修が必須である。また40代が少なく、ミドルリーダーになって欲しいという方の年齢が下がってきており、30代前半になっている。自分が現場で思うことは、キャリアステージに応じた資質向上のための研修が必要であると思う。資質向上は絶対必要なので、これを計画に掲げることで、学校の研修の充実に繋がるのかなと思う。

また、研修の充実も書かれているが、単に研修の充実だけではなく、高校の場合は我孫子にある教育センターで、初任者研修を年間25回行い、校内研修は年間300時間行っている。もちろん小中の場合は市教委が担う場合が多い

が、教育センターで行う研修と、学校で行う校内研修が連動していないことがある。連動すれば効果が高まると思う。例えば教育センターでの研修内容を、学校に戻って即実践することなどである。校外校内で連動することが必要なのかなと思うが、それらは別物と認識されやすい。連動させやすい校内研修体制をきちんと作ることが入口部分になるかと思う。自分の所も大したことはできていないが、教員力向上支援チームを作った。そこで初任者を含め、色々な研究授業を行った。隣接中高連携推進協議会でも、教員力向上支援チームを中心となって、出前授業や授業交流などを行っている。そういう体制がないと動けないため、記載できるなら校内研修体制を充実させるシステム的な表現があつても良いのかなと思った。

#### ◎委員長

ここには教育支援センターの充実、10ページには研究授業の推進が記載されており、相互にタイアップしながら校内研修活性化を進めて欲しいと思う。

それでは、次に進む。10ページの基本施策3-3家庭・地域との連携による学校力の向上である。学校力の向上を家庭・地域にどう支えていただくのか、繋げていくのかという部分で、先程もすこやかネットという言葉が出たが、すこやかネットに関わっていただいている委員、何かご要望、ご意見はあるか。

#### ○委員

私の場合はPTA活動からすこやかネットに関わっている。協力してくれる保護者は少ない。PTAなどは敬遠されるところがあるので、PTAや、各中学校のネット活動に入りやすい環境をつくるのが理想だと思う。学校関連の組織は堅苦しいイメージがあるが、子どもを見守るためにあり、地域と連帯していることを発信するべきだと思う。ただPTAなどだけでなく祭礼団体にも参加しない人が多くなっている。子供会など地域活動に飛び込む親が少なくなっているので、入りやすい環境やイメージにしなければいけないと、町内の祭礼関係の人と考えている。そのためには、色々な人に色々と意見を聞き、どこで躊躇されているのかを感じないといけない。次の役員を決める時も、何のために活動するのか、親の理解をどうやって得るのかが問題である。

#### ◎委員長

何か糸口はあるのか。

#### ○委員

それが一番難しい。例えば10年間活動をしているが、役員になることを敬

遠する人が多い。これに対してどう取り組むべきか、ここ10年間考えているが考えつかない。

◎委員長

委員は何故10年間活動されているのか。

○委員

最初は仕方なく入ったが、始めるとそれなりにPTA活動やネット活動で楽しみを持てるということに気がついたからである。何をするにも何か楽しみを持たないと続かない。その楽しさをどう発信するかが課題である。

◎委員長

次に11ページに進む。地域の豊かな学びの育成のところで、委員が社会教育委員会議で議長をされていると伺った。地域の豊かな学びの育成について議論されていると聞いたので、その様子をお伺いしたい。

○委員

先月10月21日に社会教育委員会議の中で、この教育振興基本計画に係る生涯学習分野について議論をした。社会教育委員は7名いるが、委員からは同様のご意見が多かった。家庭での教育力低下の指摘が多くなったが、もう少し地域力の向上という観点が必要というご意見も多かった。この計画を拝見し、家庭・地域の教育力向上の支援が記載されており、主な取組みもほぼ我々の中に出た意見であり、ありがたいと思っている。何かできることがあれば協力したいと思う。

◎委員長

続いて12ページ基本施策の4-2文化・芸術・スポーツの充実について、文化協会のお立場から委員、ご意見をお伺いしたい。

○委員

文化・芸術・スポーツの充実と書いてあるが、よく分からない。もう少し具体的に書いて欲しいと思う。

文化協会は26部会あり、600名ほど会員がいるが、高齢化の波が押し寄せている。文化協会で活躍している人は文化祭で発表の場がある。作品を書いたり陶芸を作ったりする人は発表の場として展覧会がある。発表の場を見ていると年齢を感じない若々しさがあり、自分の好きな趣味でプロ級になっている

人がおり、すばらしい文化活動をしていると思った。ただ、そういう風に活躍している人たちは、それなりに課題がある。次世代に繋いで行きにくく、できるなら若い人に入って欲しいと願っているが、それは難しい。だから学校に出前講座として行き、日本舞踊なら幼稚園などで先生や子どもの前で踊る、落語部会では小学校や中学校に出向くなど取り組んでいる。幼稚園では難しいのではないかと聞くと、プロなみの人なので、幼稚園の子どもにあった内容に変えてくれる。そうすると子どもは本当に楽しんで笑う。お茶やお花も幼稚園に行き、活動している。それはやはり伝統文化として子どもに作法・行儀というものを伝えていきたいという気持ちがあるからである。とにかく何とか自分達が持っている力を地域で活かしたいという気持ちが強いのだが、学校で時間をとってもらうのが難しいようである。その辺を考慮し、文化協会の中身を宣伝し、子どもが楽しめることを伝えたいと思うが、学力、学力という先生だと折り合わない。今後の課題もあるが、どうしたら良いものかと思っている。また、秋の文化祭の時期では、発表者は本当に生き生きとしている。折角の機会なのでもっとアピールしたいと考えるが、毎年チラシなどを作っても集客が伸び悩み、それを学校などにアピールできればと思っている。

#### ◎委員長

具体的な提案が出された。ここに書いている連携コーディネーターは活動サポートーとは別なのか。

#### ○事務局

連携コーディネーターの支援とは、スポーツ分野、博物館分野、生涯学習分野で社会教育委員にコーディネートをしていただいていることをさす。また、活動サポートーは、学習館や織編館などそれぞれの施設でボランティア活動をされている方々のことと、その方達を通じて文化・芸術の活動をサポートしていくというイメージになる。学校への出前講座についても、文化協会の方や大津おどりやあびこ踊り保存会の方に、なかよし学級などへアウトリーチ授業をしていただいており、そのような活動を広めていきたいと思う。

#### ◎委員長

それでは、2ページの小中学校における確かな学力の育成に戻る。おそらく多くの市で学力向上が課題になっている中、大阪府下では家庭学習習慣の定着が厳しい、しっかりできていないという状況が見られる。この点について教育委員会では家庭学習の手引きを作るなどで、保護者に協力を求めることを考えているが、家庭学習に対してもっと積極的にできる方法はないか、委員に伺う。

○委員

家庭学習は具体的な施策でとても良いことだと思う。学校で先生に聞くことができない、聞くことができないからわからない今まで授業に投げやりになってしまい、そして授業が荒れるので塾に行く、塾で進んだことを学ぶので、学校の授業がおもしろくないという負のスパイラルは、他の学校でもあると聞く。家庭学習は、親の目が届くところで勉強するところが良いと思うので、それを支援できるようなものがあれば良いと思う。勉強だけでなく行動にも目が届けば大変良いと思う。そこには共働きなど大変な家庭もあるが、親が子どもを見るということに意識を向けるだけでも良いと思う。学びっこ支援ルームみたいなのはどうかと思うが。

◎委員長

学びっこ支援ルームとはどんなものか。

●事務局

自分が勉強したいものを持って行き、それを指導員がアドバイスや補助をする。自学自習と家庭学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を狙っているが、まず自学自習の力をつけようという目的で、放課後学習教室のような状態で実施している。

◎委員長

それはどの校区にもあるのか。どのくらいの頻度で実施しているのか。

●事務局

どの校区にもあり、週2回行っている。定員が基本20名だが余裕があればもう少し増やすこともでき、また、人数に応じて指導員も増員しながら適切に対応している。

◎委員長

ここに書いてある手立てとして、手引きの作成は良いと思う。それから個人的な意見だが、自ら学んで自ら学習していく自学自習力は、学校がつけてあげないといけない。学びっこ支援ルームはそのための一つの手立てであり、担任の先生、教科の先生が学ぶ力を子ども達につけてやらないと、子ども達はどうすれば良いかわからない。学びっこ支援ルームがそれに当たるかも知れないが、教員が家庭学習できる力を子どもについてあげるという視点が必要である。で

は、学校教育の立場と生涯学習の立場からそれぞれまとめとご意見をいただきたい。

○委員

生徒会活動に関してはどうになっているのか。どこにも載っていないので気になった。自分は大学で教えているので、学生の自治を尊重している。生徒の自治をサポートするという視点があると良いと思った。

○委員

本計画には記載されていないが、実際には学校の中で教師が子どもに教えることと、生徒同士が教え合うことは別であり、生徒会が色々な行事や運営を企画している。そのことを発信することで、子ども達の受け入れ方も、教師からの発信とは違うものがある。やはりお互いに同じ立場で何か物事を進めていく自治能力というものは、非常に大きな意味がある。本校でも生徒会が色々な行事に関わっている。ただ、まだまだ生徒自ら企画し運営することは、育てていかねばならないと思っている。学校の中では教師が教える以外に、子ども同士で教えあう、リードしあう、リーダー的存在は学校教育に必要だと思う。

○委員

生徒が先生を手助けする状況を想定しているが、アクティブラーニング的な内容の文言があれば良いなと思った。

○委員長

それでは、生涯学習、学校教育のそれぞれの立場から学識委員にまとめていただきたい。

○委員

全体として学校教育については、おおよそ全部網羅されていると思う。これ以上となると盛り込み過ぎになるのではと思っている。これを全て市教委が計画として、学校や先生の仕事・研修として実施すると思うが、そのことによって子どもがどう育つかというところにリンクされなければ意味がないと思う。また、このままだと先生が多忙になりすぎないか懸念している。

学校教育を高めるために基礎的な条件整備をしなければならない。もう一方で、それぞれの学校独自の課題があり、学校経営計画に結びつくと思う。府立高校とは少し違い、義務教育は全ての学校がある意味、同条件であるが、その中には、地域の課題、子どもの課題が別途あるので、そこが学校の特色になつ

ていく。

事務局にお願いしたいのは、これを全てまんべんなく、全ての学校・園で実施するのではなく、各学校・園の課題に応じたところに落とし込んで、人や物をそろえることをして欲しいと思う。その一端として学校経営力の向上のところの学校独自の学校裁量の予算編成などがあり、各学校園が求める運営をして欲しいと思う。

もう1点、先程から繋ぐという言葉が色々出てきたが、人と人を繋ぐ方法もあれば、情報を繋ぐなど色々な方法がある。ある南河内の市でコミュニティスクールというやり方をしているところがあり、そこは学校の中に公民館的施設をつくり、どちらかと言うと、学校は地域の施設を借りているぐらいの意識に変わりつつある。空間が自動的に共有されるので、自然に繋がりやすいという状況ができるのかなと思った。これを本市で実施すると良いと言うのではなく、空間的・物理的に一緒にしてしまうところがあっても良いのかなと言うのが一つと、委員の話でだんじりが出てきたが、だんじりの後ろを走るときに保護者は全力疾走する。通常の100M走では見られない勢いがある。このように目標と何かを旨く繋ぎ合わせながら、教育ができるとおもしろいと考えていた。泉大津市には多くのリソースがあり、それを旨く繋ぎ合わせていければと思っているが、学校教育としてはそこをどうやって周りと繋げるかは、校長先生の力も含めて学校現場で考えるべきだと思った。

#### □副委員長

今の論議の最後の方で集中的に出された意見は、生徒の主体性、PTAや保護者の積極的な関わりを求めるという意見である。全ての市民や学校教育に関わる人は主体であり、それを意識したうえで計画に落しこんだ方が良いのかなと思う。そうしないと、新たなプロジェクトが計画されると、教員はプレッシャーを感じる。それは本来の目的ではないので、どこかで計画が持っているスタンスを示した方が良いと思った。

例えばPTAの参加について、PTAとはParent-Teacher Associationと言い、教員と親の連携組織という名称である。ところが実際は親の組織になっており、学校は校長がたまに出席して、委員会などで挨拶をする。本来、そういうものではなく、場合によっては教職員全員が出席し、そこに保護者の代表が関わることが現実的な解決策かもしれないと思う。

また、包括連携協定が生涯学習のところでいくつか記載されているが、包括連携協定大学については、リソースとして活用するなら、タイトルに使わない方が良いと思う。それ以外の大学も地域貢献を視野に入れているので、これを書いてしまうと、包括連携関係にある大学しか依頼できなくなってしまう。こ

れは大きな問題である。

全体に渡って感じたことだが、これは計画であって、当然これに基づいて進めるべきだが、計画を実施するに当たって、理念、目的が必要であり、今この資料には余りそのことが書かれていない。理念、目標を見て、市民や教員は、目的・考えを知り、協力するという論理になるわけである。それがこの文面だけでは分からないので、それを最初に持つて構造化が図れるのかなと思う。また再掲という表現が見えるが、つまり細分化していくと、現実にこの事業は2つの目的に繋がるものがあると思うが、現実的な落としどころの構造化を図らないと、一担当者としては、作業めいたものしか見えなくなる恐れがある。恐らく現場における横の連携が必要になってくるであろうと考えられるので、その辺りの現場を踏まえた構造が必要だと思う。

数値目標の話があったが、少なくとも本日のこの計画の中には、数値目標がほぼ出ていない。むしろ数値目標が出ていないことで、現場はそれを欲するのではないだろうか。

#### ◎委員長

今回、積み残しとして、資料4の重点事業については次回に議論をさせていただく。最後に事務局から今後のスケジュールについてご説明を願う。

#### (2) 今後のスケジュールについて

##### ●事務局

資料5 説明（省略）

#### ◎委員長

では今後、このスケジュールで進めさせていただくこととする。

#### (3) その他

#### 4. 閉会

##### ●事務局

これにて本日ご審議いただく予定の議題は終了した。

それでは、本会議を終了する。

以上